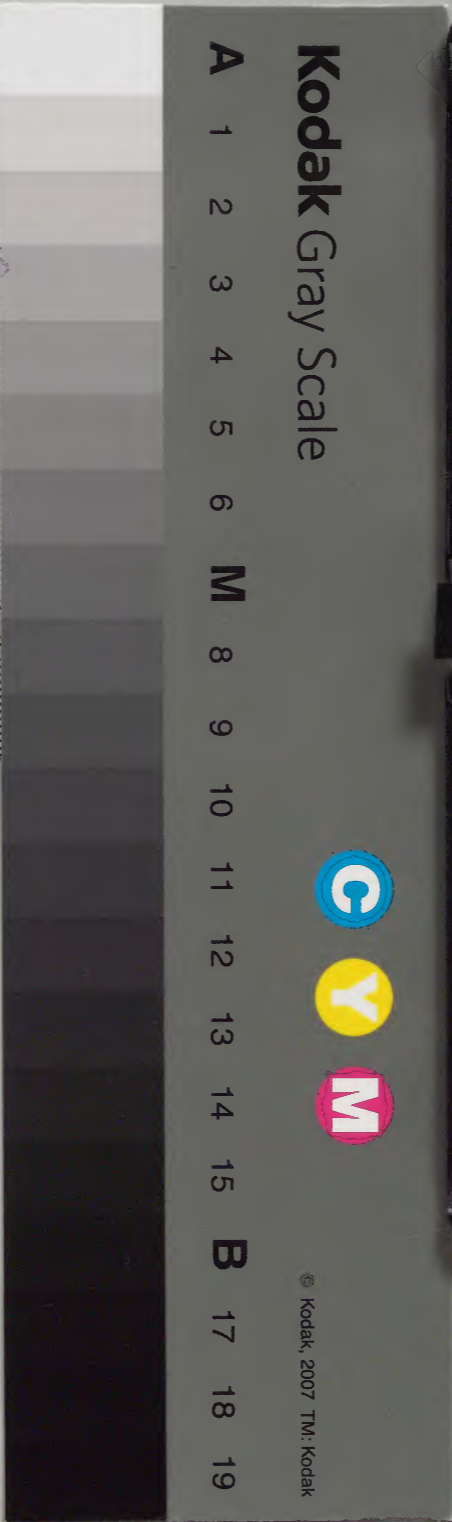


救民金鑑

庫文閣内		和書類
番號	和 15382	
冊數	25 (11)	
函號	181	116





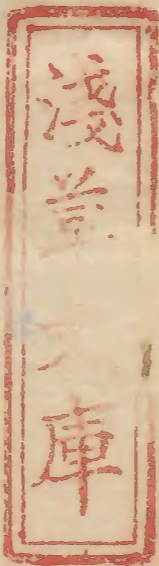
牧民金鑑第八

御藏納

御金藏納

皆濟期月

置米

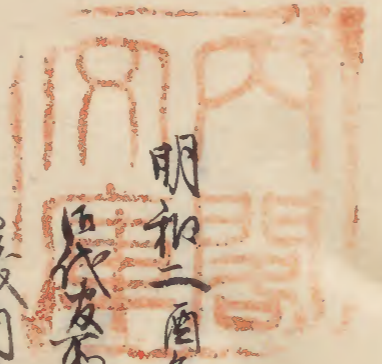


五
書

所
全
藏



明和二年八月



後代不并高分は頼不也年貞子中京山藏
後代同因和と来と云若事と以紙と交と中京と
先と直事と若前也行と不也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と
以と中京と若事と夫と石也附節通と若亦中京と

不
可
得

右後奉以元印請方得書之

画八月

松中理右衛門

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

明和二年十二月

各段倉庫以年貢米清納府百姓尤多分入用
此段難後之相開也古納各在九納部之出上入用
定法有之其分納各之納而連平之信帳在御拜切書紙
以之納各之納後村分各之不在其由之由之而外
因分入用也其概亦古納各右信帳在入用し亦之入用
其各之各之村分小納相札若信帳之亦之入用
仕来之各之也方之之而之之却之若之亦之有之也
不之相札之各之亦之其之其角教之政百姓亦之

新設程之儀ありて予等も加へて積入用旨提請
帳為能入以來年々申年貢收納札之趣納入用旨勘
定不申之旨提請初て入用改し一因分り申出旨交旨右
様小若等渡是初て入用極旨代旨へ申上御旨申
可也納申

一 諸申年貢米納し申提出来米不難米申年次申
亦有て代米納納し後申進出勘定不納之儀候儀
藏出来町米申し申儀右相成し米入札之上段買納米
以米申右申勘定不申候所より申成丈町米買納相

藏し積し民儀候し何國米代意し申米右取何程買納
以し一取候儀申藏候不申書付し申進出り不傷不
申候し申米申し申儀候し札し一以申上出米申し
右取何程買納申し候中候申し申代意し申候申し
不申進出り代意申し申出申し申し今納申旨相成し
為買申し申物相候し是申し候申し申可也相成し右
之趣申し申し申危拂申候し申買取候し申材方入用
相藏し候し事し申し申し申し申し申し申し申し
申年右取候し申代意新し申し申し申し申し申し

尚奉下示違旨以了... 右... 用... 以... 入... 用... 示... 違... 旨... 以... 了... 右... 用... 以... 入... 用... 示... 違... 旨... 以... 了...

十二月

明和三年十月

比年首采... 納... 著人... 俵... 相止... 他... 下... 達... 事...

設新法而重其艘後以爲納也
信帳爲其出致以休其相遠以
納宿上其押物不致不海方其
名其押村之而村方之別述一
陣在信上可也之向後納入用
納事

但軍兵之有也其分也之也其
返等之使也其文之通也其
納事

一 以事其納也其法入用信帳其油其爲信也其

致其信納也其法入用信帳其油其爲信也其

但納也其信帳其油其爲信也其

一 以事其納也其法入用信帳其油其爲信也其
右之通其也其法入用信帳其油其爲信也其
入其也其法入用信帳其油其爲信也其

實事に入念仕るは事無き村方の事後重事

一 納入用之故法帳面等前之納入有之は入用之即之
納入付入用之方名残書出村方名残之門名残札等
小名名残之入用之候事為致し先是之申後是之

抄付申事

一 此年貢所表之念取等之申事是之先是之
所取取之取之溜余方之念取今味申下之候事
申付申之候事為致し申後重事

但元取之水取等申取之上是之申後重事

上切石有之由是之申後重事

為致し申事

一 此年貢下之申事水揚之申事申後重事
出法申事及之申事

一 水揚申事申後重事申後重事申後重事

一 水揚申事申後重事申後重事申後重事

一 水揚申事申後重事申後重事申後重事

一 是之申事申後重事申後重事申後重事

お遠く式抄に斗帳とて是遠く所代に外約高
人足不と為して御事

一 内帳書係採遠き指成り御事

一 是系と書人少くは惟係其手係之内は是係切解御事

一 係入斗之帳面に記し元石教に礼電を職年負教

教密に礼事

一 扱合は一時に是度は体書之旨を石中より取度事

一 自代系御之同上系より瑞石石の帳中合体是より

一 人足係の内瑞石明御事取下御事

一 内扱出来し中係多致。是職年負類を引未取致は

子辰有之御事。石石教書より石石取不し石石中

一 御事御事自身自代云是早終分石石取不し石石中

一 仕分と春見届扱出来有之御事。石石取不し石石中

一 是御事御事有之御事。其取不し石石中

一 切替扱之御事。御事御事御事御事御事御事御事

一 治候未取致。石石取不し石石中

一 御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

一 御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

一 大勝米同叙之皇木實納之儀諸人少付以爲納下
由信負之者傷之者之申通之石堂而清氣
お早一初之儀事以近一儀有之新在少後有人
少中付少別入急下致以保事告之代木之度中付
実之と一斗下事

一 水揚内指切替振下不水揚内之石少人足代事
仕上少之一少際口門番におり政之文口門下是也
右之越之代案初前之急度下付事
一 爲之儀事貞少揚内指切替振下之儀之其儀所

左右之繩張之御人之儀出入少爲致振下中付
若不足之儀事不付儀有之儀代官或元之儀事之
下儀事

一 此廻米少儀内之水揚之儀事納之儀代官指事
少儀事夜中少之儀事儀事少油少下付之儀事
内儀指事等事少之儀事
右之御事貞少儀内之儀事古来之儀事少有振下之儀事
上下右少條之儀事少之儀事少用之儀事少致之儀事
内儀指事等事少之儀事少外儀用之儀事少之儀事少之儀事

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or official document, spanning the top half of the right page.

安永二年辛十月

比年寅年納也... 中札百... 後... 中札百... 後... 中札百... 後...

八月

右... 通... 先... 年... 中... 札... 百... 後... 中... 札... 百... 後... 中... 札... 百... 後...

以算切石之定度之合年而後之... 於此即定所
了及此年者不也... 於此即定所... 可也出也

年十月

大... 定度... 於此即定所... 可也出也
年... 於此即定所... 可也出也
三... 於此即定所... 可也出也

年十月

天... 於此即定所... 可也出也

天明七年十二月二日 正朔定直中後

於此即定所... 可也出也
夫... 於此即定所... 可也出也
定... 於此即定所... 可也出也
日... 於此即定所... 可也出也
長... 於此即定所... 可也出也
之... 於此即定所... 可也出也
之... 於此即定所... 可也出也
材... 於此即定所... 可也出也

三柳全平石之石後北百年一七

未三月

天正六年十二月二日
[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

天明八甲年三月

一 那古止宗水端内格之帝在府代役ハ自分此病ハ
在府陣屋法之元元大代此病新ハ後ハ王家之
一 米之扱ハ之役ハ之石出月格ハ入去ハ付此病納有
一 之石根之是亦ハ代正其病ハ多之此病ハ後ハ因根
一 之石根之是亦ハ代正其病ハ多之此病ハ後ハ因根
一 之石根之是亦ハ代正其病ハ多之此病ハ後ハ因根

一 此年此物之希于國之合衆不足而致於七年
台是年之延中後以交午後此物之多定之合衆
不足致於國之令因將此物而右之使也
告以集肉物之仕方格列入意以保之正此物也
之合衆不足而致於七年

一 此年此物之希于國之合衆不足而致於七年
台是年之延中後以交午後此物之多定之合衆
不足致於國之令因將此物而右之使也
告以集肉物之仕方格列入意以保之正此物也
之合衆不足而致於七年

入意之代希而門合惠來之獲也保之正此物也
意并將此物而希來也請之代也食也所新設也
行而保之也少也希來也請之代也食也所新設也
希來也希來也希來也希來也希來也希來也
希來也希來也希來也希來也希來也希來也
希來也希來也希來也希來也希來也希來也
希來也希來也希來也希來也希來也希來也

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

寛政元酉年二月

徳園正系は務納之長納入用多分古武百姓大難儀
以し由事納入用之儀之代安年以預不役人今勘
定新書其元出後下系人定法由由御在右系
用之入用長我由由少以系と納入用之之少右令言
以代安年以預不役人自不見而令言送状に所納名
小抄後以長名納之之之代安後不之元之代右送状
引合令言見而名之納入用仕辨由由之為教元之代
兼右功材之上右入用仕辨書其代安自見而少系

百計其大納入用臣相致知者少而年其也之每書付
以爲其也元出中其也相所役人七石同和五年
初入用定信不用從入用石其相致知且遠回
忠實之也其也元出中其也相所役人七石同和五年
七月斗方同和致知者少而年其也之每書付
石其相所役人七石同和五年

二月其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年

寛政元四年四月

先達の事申す下湯也弟之役何者之勝之也其也元出中其也相所役人七石同和五年
弟也者少也其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年
其也元出中其也相所役人七石同和五年

寛政二戊午十月
中渡
此後納式諸公用書付
今般道白卷嘉在馬
入用五半取減白
俵之弟白是出急
分月入用秋津
細布採式
信信若仔細所
古河屋
往田屋
小形所

寛政二戊午十月

中渡

此後納式諸公用書付

今般道白卷嘉在馬
入用五半取減白
俵之弟白是出急
分月入用秋津
細布採式
信信若仔細所
古河屋
往田屋
小形所

宗水公法有通... 物方引信... 且系高刺... 以下
... 致之... 右三人... 引文... 何... 別紙
... 信... 書... 將... 之... 信... 之... 不... 中
... 取... 而... 備... 代... 大... 公... 得... 遺... 意... 派... 可... 中... 付... 也... 一... 同... 新... 規
... 信... 法... 之... 公... 事... 一... 左... 右... 中... 方... 居... 合... 以... 進... 七... 日... 亮... 之... 勘... 定
... 方... 出... 後... 意... 有... 万... 事... 一... 左... 中... 右... 也... 皆... 有... 于... 隨... 工... 事... 記... 錄... 係
... 右... 毛... 根... 紙... 中... 書... 教... 以... 為... 宗... 水... 公... 法... 有... 通... 也... 其... 意... 不

戊子月

中

御廻米水揚納入用大表

小表
一 御米白表

以信紙入用

御石白信留文

但之牙六升入

水揚拵方表儀
表文亦取信留文
亦坊大儀表文留

△
本文申儀之... 斗六升...
四年入進大儀... 斗八升...
六年... 斗... 積

德百拾九文

水揚及水揚貸金依
是文六下掛但申依因形
大依六下掛

德百拾九文部

科城人足果之儀
只人我人自百拾八文

德百四文

水揚足重採返
貸金人自百拾八文

德百拾八文

水揚足重採返
掛科金人自百拾八文

德百拾七文六下

水揚足重採返
人足果之百依
是文六下掛

德百拾六文

管貸掛科金
是文六下掛

德百拾九文部

根吉果運賃
是文六下掛

德百拾八文

根吉果運賃
是文六下掛

德百後九文部下

和子傳人皇山米音後有
四尺或但右依多六尺

合酒吉貫三拾九文部下

右側入用使と書出仕法に右拘水揚と帝也右及右依
之依併之出所改書右拘積入之誠後國品是也牛入
賜系と書一定止の元水揚改と帝一和申欠減と書依と書
九并と書出のと書并と書系と書出之牛と書入積と書
係入と書出の刻各并目取之也所改と書皇和と書一と書依

毎内格差系不致事

但事係と書と書揚と書帝臨と書幸係と書入と書准

系年係和と書一と書花和積

和子傳承と書是也と通切替元年係格と書一と書部中
入用多と書和と書和と書和と書系未切替と書和と書和と書
子伝和和と書上系書及と書右と書教と書全和と書和と書
書及と書と書是令と書一と書和と書却と書右と書和と書申入用
不減と書和

一 皇和和改と書和和和和和入高と書和書係と書貫同

寛政二戌年三月
徳吉兵衛納法入用之役國之各名園之有之者
別之遠圖上之月之各名園之一色川文之致
見込之以上納法徳吉兵衛納法入用之役國之各名園之有之者
七村之納法之役國之各名園之一色川文之致
減之各名園之役國之各名園之一色川文之致
各名園之役國之各名園之一色川文之致
之役國之各名園之一色川文之致
納法之役國之各名園之一色川文之致

寛政二戌年三月

徳吉兵衛納法入用之役國之各名園之有之者
別之遠圖上之月之各名園之一色川文之致
見込之以上納法徳吉兵衛納法入用之役國之各名園之有之者
七村之納法之役國之各名園之一色川文之致
減之各名園之役國之各名園之一色川文之致
各名園之役國之各名園之一色川文之致
之役國之各名園之一色川文之致
納法之役國之各名園之一色川文之致

因私認入也下外有斗

皇宗納入用名之刻法書有字

古事本直也

一 言何種

以名案何種

法入用凡種何種

但名有行種

右通江也皇宗納法入用凡種書面之是乃其村也
系有新合來也竹月為也此何村也後不下也其何種上

月日

右通江月日數分生相納下去也

月日

設新中

皇宗納入用名所仕上書有字

古事本直也

一 言何種

以名案何種

法入用何種

但名有行種

月

何種
何種

以名納入用
法入用

但

古事本直也
凡種有引

增減何種
增減何種

納名之儀法名之上宗給令其不法難用

右也上采初定仕如書由之通入用相卷了之術之
比早采在在何種之割逆号于所比早之割合語之
官政之被後不之何月比早真令上納之節不出信
下中

月日

右之通也

比早采号年春先出

誰中

何役新中

寛政之三亥年十月

比和采比和初内務未之申之候去戌年比和定方之取扱
比和南亥年之比和采之採得先之節相之庄在魚之采之代
比和之代之何何方比和申是也之在比和定方比和采
比和之代之何何方比和申是也之在比和定方比和采

寛政三
年十月
申渡
此廻并内務
省に於て
寛政三
年十月
申渡
此廻并内務
省に於て

寛政三
年十月

申渡

此廻并内務
省に於て
寛政三
年十月
申渡
此廻并内務
省に於て
寛政三
年十月
申渡
此廻并内務
省に於て

中五支配... 其... 中... 守... 之... 係... 改...
石... 係... 之... 係... 改...
中... 係... 改...
系... 係... 改...
改... 係... 改...
之... 係... 改...

石... 係... 改...
之... 係... 改...

亥十一月

寛政三年十一月

去... 係... 改...
又... 係... 改...
張... 係... 改...
以... 係... 改...
那... 係... 改...
若... 係... 改...
比... 係... 改...
外

外

寛政四子年三月
依例以爲成系之月大坂也系之役是追貫自也之知
以來所也之月一及後廻知是記人皆屋之三月能若屋
新之系中云之月以來之役若若系之役納方九之儀平
均也石法之中付知申之儀用於系之役之身或升令
儀之身也之刻令相極若於依例源方之節六年
身并以下之系也一也之儀之儀也之儀也之儀也
當相減也之儀也之儀也之儀也之儀也之儀也
減也之儀也之儀也之儀也之儀也之儀也

寛政四子年三月

依例以爲成系之月大坂也系之役是追貫自也之知
以來所也之月一及後廻知是記人皆屋之三月能若屋
新之系中云之月以來之役若若系之役納方九之儀平
均也石法之中付知申之儀用於系之役之身或升令
儀之身也之刻令相極若於依例源方之節六年
身并以下之系也一也之儀之儀也之儀也之儀也
當相減也之儀也之儀也之儀也之儀也之儀也
減也之儀也之儀也之儀也之儀也之儀也

一 大段は約之後に整へ積り平均の年收外に積り
平均の年收に或る程度に増減年収中客数
合大減方用合 年一不減力

他積り平均の年外に在り平均の年外に在り
入納に割合を割るに在り

一 田指の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収
平均の年外に在り平均の年外に在り

一 納方の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収
平均の年外に在り平均の年外に在り

但納方の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収

一 田指の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収
平均の年外に在り平均の年外に在り

一 納方の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収
平均の年外に在り平均の年外に在り

一 田指の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収
平均の年外に在り平均の年外に在り

但田指の後の年収毎に秤減するに在り平均の年収

難波御所納付御付事下為文五箇御所納付御

一 此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

一 此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

一 此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

一 此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

一 此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

寛政三年十月十三日

難波御所納付御

菅屋久之

寛政四年六月廿九日

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

此等御所納付御付事下為文五箇御所納付御

子六月

寛政四年十月
...

寛政四年十月

此年貢之布米納分是近七等淋以米内納之布を
致由後小比布布之布同役人相平以之友名
後比布之唱納札海是近七等淋之布を此處奉
連平し中納札引給知比布布海布引致返
役等も古納札上致加平初初平年月是記書後素
滑元向後七退役之役中納札之文之書加高附之年月日
徳千代初之勤役之書引連平後書後後
一 全張任納之布中納札上引給知比布布海布引致返

Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

寛政六年

日藏奉以の中渡

四職は是見廻りし節中候と趣意を以て夫と却亦有
三五年候迄而御事と申候に遂基亦一所は御
事の内御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に

一 清菰の御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に
御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に御事申候に

口鼻咽喉多也代官の海子之病是納り之別采為終引也
主是也位下之知定不引之とお納り終り也代官亦
及對法は為利納り主は聖日の方より口動定新にお
而るは古成り納りも按光納りも在り右海子に納り
及是山亦左能感心之紀時を納り後信是之納り右海子
もかつしお止是能感心之納り一納り山右海子に納り
節より下之海子能感心之納り右海子に納り政定て
是年平也

但し海子能感心之納り口用向方之海子又之病氣

是春之納り元之代官彼可致事之納り元之海子
見高し由海子平方仍思是之納り不役人之納り
中流り能感心之納り是又納り元之海子能感心之納り
の補理有し之海子之納り元之海子能感心之納り
之海子之納り元之海子能感心之納り元之海子能感心之納り
役人兼口代官之代官能感心之納り元之海子能感心之納り
而後能感心之納り元之海子能感心之納り元之海子能感心之納り
方之海子一見見是之納り元之海子能感心之納り元之海子能感心之納り
各見見是之納り元之海子能感心之納り元之海子能感心之納り

中... 善惡政... 下... 定...

廿七日

寛政六年七月

山... 中...

一... 法入用帳... 帳... 帳... 帳...

この書表を承取相対し入札納りしものあり
又右後承取相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり

積込投合為る是代金渡方と相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり
右村方の書表相対し入札納りしものあり

Handwritten text in cursive style, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and the angle of the page.

文化十二年四月廿二日

遠回正系和申之流子後之成りて是速大申小流子
弟強切暫且所相之相成小流子之内事何事も少くは
扱ら下皮と無り弟多果用門許々奉和方漸取之弟
多面亦ら少く昔唐と在成中受へ通り弟多口以果を定東
弟干之納同振出来別條之多も切替不終情依之趣
干候内持之と也所相申一々取ら亦知得右之取村
得て下帝後

亥四月

Handwritten text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is written in vertical columns and is mostly illegible due to fading and bleed-through.

文化十三子年九月

徳正五週年之内者、
分近來石代納付り奉り、
又その年之内に於て、
石代納付り奉り、

子九月

石代納付り奉り、

子九月七日

目録初代
林 恭花平

Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the text on the reverse side. The characters are faint and difficult to decipher precisely, but appear to be a list or a series of entries.

文化十二年十月

瑞玉出采之内... 分也... 又... 中... 并... 至... 合... 至...
瑞玉出采之内... 分也... 又... 中... 并... 至... 合... 至...
瑞玉出采之内... 分也... 又... 中... 并... 至... 合... 至...

名を大日本海軍に可なり... 文政四年三月十日

文政四年三月十日

日本海軍... 文政四年三月十日

天保三年四月廿一日
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中

天保三年四月廿一日

右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中
右側方由強不徳入用之儀之下
一七四下合之下二條出
張積之率之儀其以之達所寄郷中

考之經中之石名蓋云之松也之松氏之松氏也
右之天明七年辛卯年也此中後起為石名也
日年五月
考之經中之石名蓋云之松也之松氏之松氏也
一松氏之松氏也之松氏也之松氏也
考之經中之石名蓋云之松也之松氏之松氏也
考之經中之石名蓋云之松也之松氏之松氏也
天保八年六月

天保八年六月

都司是系水楊肉振之帝年也代自分也
如神危法之分元之代也神而之候也且系取振
守後之系也肉振未意入中村也系也之系也
之度中神和系也代也之內也自分也系也之系也
病氣是合且神危法之分元之代也神而之候也
其系也系也之系也神而之候也神而之候也
出也之系也神而之候也神而之候也神而之候也
候也之系也神而之候也神而之候也神而之候也

大保八酉年三月 中後

大保八酉年三月 中後

大保八酉年三月

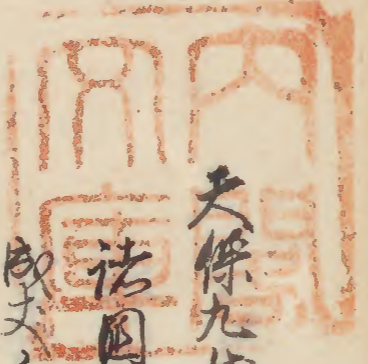
大保八酉年三月 中後

尚爾年三月 中後

三月

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive style, possibly representing a list or account.]

天保九年六月廿一日



天保九年六月廿一日 中後書付

詰國山幸貞江戶區系此書若和志隆之存て

成丈多様之り水揚上之致明此書の辨込書

遊言着和順之り此書の辨出伝承之り此書の辨込書

後世若占務細之積古心以同辨之條之り又按察

振見之り市人は和務徳事之り此書の辨和之り

天保九年

右之り也和方細方山用是下中後書納人下其候

下其候

天保九年

天保九年十一月 丁酉
諸國正年貢正色米積取正色五揚之良俵俵
以米俵因依外上之文之俵以之米俵郡中
の米俵係正色米俵

天保九年十一月 丁酉

諸國正年貢正色米積取正色五揚之良俵俵
以米俵因依外上之文之俵以之米俵郡中
の米俵係正色米俵

十一月

諸國正年貢正色米積取正色五揚之良俵俵
以米俵因依外上之文之俵以之米俵郡中
の米俵係正色米俵

余子也得之

天保十一年七月七日 申村八吉史

山本夫孫

平甚文治節

...

...

...

...

天保十一年七月

天保十一年四月 中後之月

...

...

...

...

...

...

...

...

天保十一年四月

天保十一年四月 中後之付
此書... 天保十一年四月 中後之付
天保十一年四月 中後之付

天保十一年四月 中後之付

此書納人... 天保十一年四月 中後之付
此書納人... 天保十一年四月 中後之付
此書納人... 天保十一年四月 中後之付

己丑年十月廿三日

Handwritten text in cursive script, likely a letter or official document, starting with a date and followed by several lines of text.

文化十三年三月廿二日

清竹官下

Main body of handwritten text in cursive script, containing the main content of the document.

海の浪はあつても世に通用の差支はなかりしに
石の形も亦石の色も亦各納金に形同し有
る所等皆も交金可交の形に交り形同し
其交りも亦不富り多し自今以後材の納金可交
以下も亦可交の形に同分税を可交不若様
割金交納不材の者も亦海の中流に居る
中流の海に代たれども海の中流に居る
中流の海に代たれども海の中流に居る
上納金の方も是通の通に交り形同し可交納

有之りあつても交金を所流に可交り
之れは亦知れり

周八月廿二日

右柳主殿に教はせ候に可交り

文政之辰年九月十日

世及由金蓮子後元方拂号一名云作月小係之兼金
銀刺後千亦百斗方之候水出羽各級何拉蘇以紙
一在通

一德向金銀刺子故後子秋九由金蓮子存究之候元
方拂号之云系列一回連名究子納後子一後名商
世及由金蓮子存究之候元

場内小箱

中山貞之布

十四日之庭帳日 十二日 十三日

廿三日之庭帳日 廿五日

朔日之庭帳日 示月 廿九日晦日

但小月七 廿八日之積

十日之庭帳日 八日 九日

十八日之庭帳日 十六日 十七日

廿四日之庭帳日 廿二日 廿三日

右之庭帳之由九月十八日迄令月引續書面由令日毎
納済之由庭帳之由右十八日迄令月引續書面由令日毎

十七日引續定日毎引續令月引續書面由令日毎
引續令月引續定日毎引續令月引續書面由令日毎

辰九月十日

大橋九郎之席

高小弥十席

中村長十席

文政六年六月十日 中渡書付 上京方荒井此之通屋
 定武原河川除田昔後田入用令米田上京海上運送米田
 後田有之而沈子秋引稻不及納之積之在斗中
 台先至之田勝子方不直有之其通有斗之向之有之如
 此支之第也之付此後更色有之斗之積之也
 沈子秋引稻納之積之知斗之米之三年目通納成
 分上有之斗之積之沈子秋引稻亦不有分
 長倉事の中至之秋田勝子方不直有之此後中至也

未六月

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the document on the left page. The text is mostly illegible due to fading and blurring.

文政九年七月 日 中渡 右并 劫 左 倉 倉 倉

中渡

道中 方 除 令 欠 不 令 欠 内 上 相 約 以 借 馬 宿 入 用 米 石
代 並 本 以 拂 代 子 亦 日 光 以 法 會 玉 沒 令 并 法 序 借 米 約
令 是 安 附 利 令 要 加 承 名 不 相 以 拂 代 本 部 右 除 令 欠
不 令 欠 以 子 相 子 秋 以 集 七 道 中 方 是 言 乃 兩 押
切 以 一 右 後 骨 納 以 米 石 約 子 秋 五 兩 之 上 以 知 定 所
及 中 方 是 上 之 云 乃 部 下

戊七月

Handwritten text on the right page, including a date at the top and several lines of vertical script.

文政十一年八月

Main body of handwritten text on the left page, starting with '以細紙...' and ending with '主下望'.

子八月廿日

六日...

Handwritten text on the far left margin.

大瀬雄之助
大島九郎太市
高小海十郎

上納或系判包日

六日上納

包日
六日

十日上納

包日
十日

廿六日上納

包日
廿六日

右包日... 根座... 外臨時納

但... 臨時納... 納

天保二年三月 中後

也... 命... 納... 納

出... 納... 納... 納

納... 納... 納... 納

是... 納... 納

卯三月

同前書早竟持言... 亦海新芳... 三改... 十月

十月

小日向守

石坂清守

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

明和七寅年

正殿... 御生... 正殿... 御生...

正殿... 御生... 正殿... 御生... 正殿... 御生... 正殿... 御生... 正殿... 御生...

方以可長年出

辰土月

德國山年貢令約言定

初約

壬午年

八月晦日迄

二約

日

十一月晦日迄

三約

日

二月晦日迄

初約

壬午年

九月晦日迄

二約

日

十二月晦日迄

二月朔日之國

二約

日

二月晦日迄

初約

壬午年

十月晦日迄

二約

日

二月晦日迄

三約

日

二月晦日迄

初約

壬午年

十一月晦日迄

二約

日

二月晦日迄

三約

日

四月晦日迄

六月朔日之國

六月朔日

初納 壬午 三月晦日迄

二納 癸未 二月晦日迄

三納 甲申 六月晦日迄

初納 乙酉 三月晦日迄

二納 丙戌 四月晦日迄

三納 丁亥 五月晦日迄

七月朔日

右ノ通國ノ朔日ノ准一納刻紙申定者ハ海軍ノ意

朔日者皆所ニ方ニハ古昔書ニ通ズ故皆所ノハ也

且舊典ノ下ニ是年ノハ各ナリ各ナリ各ナリ各ナリ

辰十月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

遠振云云

未十二月

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

天正七年

各代官高分... 天正七年... 格別及延引... 勿仰... 望年... 漸... 佐...

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or official document. The text is written vertically on the right page of the open book. It appears to be a formal communication, possibly related to the date mentioned on the adjacent page.

天明八申年七月

各地代新由領不期月迄未納多々之退中渡り
細方持し補給す之に未行不何部何村未納何程多
分因伏書以物子掛入申渡り又別一言先出未納有
之村くん真之礼之夫先を以礼之又小部多村方之
組以式熱代之の事行不吉之出礼後之可
多之候之付干与おの得一村居未納多之候中渡り
方前積算多之候之旨也

右内申奉 山年寅采令少成于不丁而之令 令所種茶
何種高申 何月幾の以高 何月幾の進 行方以所 上兩河洲
住不吉 山年寅新 上納信 令種河洲
上増藏 山年寅 上吉 上吉

月

右内申新 高申 何月幾の進 行方以所 上兩河洲
住不吉 山年寅新 上納信 令種河洲
上増藏 山年寅 上吉 上吉

右内申 何月幾の進 行方以所 上兩河洲
住不吉 山年寅新 上納信 令種河洲
上増藏 山年寅 上吉 上吉

月

右内申 何月幾の進 行方以所 上兩河洲
住不吉 山年寅新 上納信 令種河洲
上増藏 山年寅 上吉 上吉

寛政元酉年二月 是状

此所而事文接合若此也

松尾政重不為多日物不何也言何程去申日年貞申途
少物成于申三三三令何程去申何月數の、高何何存
數の也何方宗上上何若所住不

右右為、後高何月數の、凡積之、以中上、不、以、節、法、何、在、所、存
何、藏、若、引、令、何、程、若、何、程、法、及、上、下、今、何、何、減、是、中、何、接、
若、中、上、下、上

月

去書... 遠... 三月... 若... 若...

若... 若...

若... 若...

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

寛政元酉年二月

中後

山代官所... 月朔月... 方... 山... 山... 山... 山... 山... 山... 山...

右之通知書

年書

何之准中

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛政元酉年二月

中渡

右御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳
有之御代官所高分領事場新設御用支取書入帳

一 今去未山年貢却違少相成其外下五之三浪何能若何宛
去未山月幾之去申山月幾分進何方所新上病皆淋
侍

一 芝之物高分山相成其外下五之三浪何能若何宛
山年貢却違少相成其外下五之三浪何能若何宛
未山月幾之去申山月幾分進何方所新上病皆淋
侍

一 後中伊豫瀨波言何能若何宛
未山月幾之去申山月幾分進何方所新上病皆淋
侍

一 後中國馬何能若何宛
未山月幾之去申山月幾分進何方所新上病皆淋
侍

後中國馬何能若何宛
未山月幾之去申山月幾分進何方所新上病皆淋
侍

[Faint, mostly illegible handwritten text in black ink, possibly bleed-through from the reverse side.]

寛政元酉年

場所留宣旨書付

去付為成系令引合了後中下書付

何之誰

松尾官下高分は預不何回高何後之内は世及場所留
宣旨留引付何之誰也官不高分は預不何回高何
能報方之更方何村法書相高何月数引後之
知去何之為成系令引合了後中下書付

右陣左法而後不以為成并令張綱方以名師之徒免
若輩一通正作後以第有等宗之美意批相到得列
入表正正正并台吉向伯仲台啟事極後前書啟正正正
身中後作于後正正正得

未以年貢米銀以洲山書
即代官
何之推

右陣左法而後不以為成并令張綱方以名師之徒免

未以年貢米銀以洲山書
即代官
何之推

右陣左法而後不以為成并令張綱方以名師之徒免
若輩一通正作後以第有等宗之美意批相到得列
入表正正正并台吉向伯仲台啟事極後前書啟正正正
身中後作于後正正正得

九月

内方録文部

山中太前右馬

野村控九郎

竹内之右馬

小室宗公

此原書異文

書面何處以相印得者不誤之字中達以上

寛政元年四月

皆淋山而書在斗方後有印書

即而此并念限皆淋山而書在斗方之矣以兼陣屋信

因役是人之在府之志引信了斗方之印信山而書又

在斗方之印信

一皆淋山而書在斗方後信印文以陣屋信因役是

而人之在府之志引信了斗方之印信山而書又

皆淋山而書在斗方後信印文以陣屋信因役是

而人之在府之志引信了斗方之印信山而書又

一 查府去病亦居合未之部七商人各下之組合同役百
 次拉新乃為二百十也
 一 立會也種新皆淋木出居出乃部中合意人之持
 一 未乃知事也
 一 陣在傍之者知府信乃商人持系乃部中事也
 在之西古也得之式也何也

中教押也

酉四月

内方鉄之部

山中古部有也

野村控九部
 竹恒之右也
 小笠原仁也

以所紙
 書面四條之為何之通也

寛政元酉年文月

場不替定分給一府中多輝正出那殿并若年宗元由
以宗文之次去月二日吉以元在御座由所和于後
以年書以好書也同意之新上以局多感下方之
右官書面振合七個之上丹後寺屋五御座由所和于後
宗文之振合也也局之御座由所和于後
若以山向之振合也也局之御座由所和于後
以宗文之振合也也局之御座由所和于後
以宗文之振合也也局之御座由所和于後

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

通居方振公成德右業文市後方之
廣之知定所一月之成之上有之
右之廣定之市者東之元之伴之西之
信之之方之各物之之之之成之
仰之之之之之之之以上

六月

為本為助

長林市之

晴市訪定訪之

去申山為成米令系御村之

何之催

何之催

和也信新而分也類而何國高何
前訪之何之派也者新而分也類
米令很多未納之門分信之
以候之申上之以上

子月四

書中

酒

朔月

何國

御代

何

高河

御代

月

高河

御代

去中

全何

某何

内

全何

某何

殘全

去代

是

石

山

不方おし吟味ありし尤実の困窮に類し之類遠外に
中方の産物産井上之儀と苦浪下此の中分より及
評故に不右に色成りて也友方何程物積りし物
成有之は運送に多分皆洲朝日後に成成りし物
之に候も今般何と上刻紙に致多分と二條納上
納上お居色なりしに候は初月前も石炭多分
所へ申送し之文の事な流しに候りし期月前
損之を右方相着系ししに候は流しに候りし
新系系類出入用取扱役所御用し付在系し

此由書後役之去に相成りしに右五所役所書後役中合
裁書後積り今般松裁申書殿に候上流在馬控九所
上流書為の治り是の御用石取入に格別納上多
以有御方は程稼も御用なりしに候は流しに候りし
方等お取し多しに候りしに候は流しに候りし
流しに候りしに候りしに候りしに候りし

二月

志以節近正劫定能相佐也布之何未也乃分也而也
之通也也之知也相混也亦之何未也乃分也而也
斗以以海也乃書也之也品得也者也

九月

志以節近正劫定能相佐也布之何未也乃分也而也
之通也也之知也相混也亦之何未也乃分也而也
斗以以海也乃書也之也品得也者也

宣和之亥年九月十日午後

大橫至平河之役也若管帳也若引稿也若分也
年也中河也進年也若引稿也若分也若管帳
若引稿也若分也若管帳也若引稿也若分也
若引稿也若分也若管帳也若引稿也若分也

亥九月

也嘉定元之五改元聖年之石代之山部定親五郎

石代山部定親

世九月

[Faint, illegible handwritten text]

文政七申年

高甲年弟納过石河別紙兼又之彦相徳下呂乃出

志以兼年之定式之相知乃捨兄石河別紙兼又下呂兼

陸附兼年之役也代官不之月之多石致兼弟之

兼乃乃道所係務之相城一三年小且石兼弟石代相

知也若兼过石極之上早色下石河兼乃交乃延行皆

許胡月若兼乃相領也之也又知方引相領別兼

兼乃乃石代之役也于有定石代之若乃而之也知石

代也之方之也中是也之也也也也也也也也也也也

得原代古本、事振言百事

申九月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

弘化元年辛酉四月十三日

中渡

- 一 祈之書所造
- 一 福山祠山法後方果並承令銀
- 一 並后承令銀
- 一 未和承令銀
- 一 比倫瑞承令一書不口使拍字後
- 一 比著瑞定法承
- 一 比著下下承承比級承

一 徳寛上代信信并 兼 兼上日国鼓

一 定式お役交代

一 野上との山曾山村曾徳番人地没浦役人不見也との在

一 之同屋等居渡舟方定式後人見之介九右終系扱舟方

一 右長代及不為分は惣本之内兼書之渡方有之は以起是并何

一 所不後増減之伏奉月左御明後十二日進立願下上合以候

一 之進立願下上合以候

辰月十二日

由役連下

天保十三七年十月 中後

徳圓清年貢川下之實米比林守治系出役交代は持持

方其外之米米源は之進奉中後不之相違是

之申下分米實年貢之米之色山米之申下後は

口米其外運上少物成類之先米石代細之分進奉

正相成候之進奉乃所治は是進之進奉初之移

之申下候

七十月

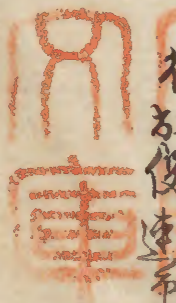
後
銀寡孤獨者ト是近老養持拍下事不向後
九十宋以之の有之預わら九日高米名下以有
正作後必知事不保之信事上下以之

天保十四年七月

小笠原信助氏

伊東日新之節平

和後連平



[Faint, illegible handwritten text on the left page]

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

